



# かいはつ

31号

岡崎市特殊教育推進協議会 平成6年12月9日発行 題字 井田小1年 木村 悠



## そよかぜ相談室

常磐南小学校長

加藤 一彦

「こんにちは！」

元気なあいさつの後、やや照れてお母さんの横に座った男の子。人なつっこい表情で、私たち相談員を見つめる。

「お名前は？」「○○○○。」

「どこの幼稚園かな？」「えーっとねえ、○○幼稚園。」

「幼稚園楽しい？」「うん。」

私たち大人と対等に話ができる。就学前の子どもって、こんなにしっかりしていたかと思心してしまふ。小学校の一年生って、こんなに話を通じたかなと思わずにはいられない。

月に一回、相談を担当する「そよかぜ相談室」に出席して、このお母さんはどんなことを心配してみえたのかと思うこともある。しかし、話を進めていくうちに、「この子を何とかしてほしい」という親の切実な思いが、ひしひしと伝わってくる。笑みをたたえて、無心に絵を描くわが子を見つめる姿に接し、学校教育の責任の重さを痛感する。障害を持つ子どもたちの親は特に、かわいいわが子の将来を、学校に、そして担任に託している。私たちは、その願いに応えるべく、最善を尽くさなければならぬ。どの子にとっても楽しい、夢のある学校でなければならぬ。

「あのね、きょうとっても楽しかったよ。先生がね、……」  
夕食どきの、こんな会話を期待しながら……。

# 親子の集い 第2回



- プログラム
- 1 たいそう
  - 2 ほしいサッサ
  - 3 シャッチーくんとかくしゅ
  - 4 F1グランプリ  
はやくセナ
  - 5 テープをきって  
おべんとう つなひき
  - 6 パン パン パン
  - 7 わかシャチレース
  - 8 徒競走
  - 9 かもつれっしゅ  
しゅっぱつ

市内特殊学級の子供が全員で集まり、共に活動し力いっぱい演技・運動をする中で、子供同士の交流の場とすることを、大きな目標とする『子どもと親の集い・運動会』が、岡崎市総合体育館で開催されました。

今年で十二回を迎え、冷房がきいた館内は、子供たちの歓声が響き渡り楽しい一日となりました。

今回の特長として、積極的な事前の取り組みが挙げられます。

運動会の係から提案された体操や演技・歌はなかなか覚えることができません。そこで、各学校やブロック単位で、行進や体操・応援等の事前練習会を行い、当日に備えました。この活動の中で友達

の名前を覚えたり、一緒に運動する中で自信がついたようでした。このような活動の盛り上がり当日の成果につながったことと思われ

もう一つの特徴は、保護者の積極的な参加でした。玉入れ「ほしいサッサ」での指揮はもちろん、各演技の手伝いに五十二人もの参加を頂き、共に運動会を作りあげようとする熱意を強く感じました。

さて、今年も、国体が愛知県で実施された年でした。これを受け、演技内容も国体に関係するものと考えました。

かけっこ「シャッチー君と握手」では、手に持った玉を籠の中に入れた後に、シャッチー君と握手をすることにしました。初めからシャッチーの方へ走って行ってしまいう子、怖くて握手できない子、ずっと触り続けている子、様々な動きを優しく見つめる保護者の姿がありました。

親子演技「いい汗かこう、若シャチレース」では、岡崎市で行われた空手・バスケットボール・アーチェリーを組み合わせて、実施しました。それぞれの演技を行うことと『僕たちの国体』に参加できたことと思います。

様々な障害を持ちながら、真剣に演技する子供たち。それを暖かく見守る保護者の方々。言葉では表せない喜びが、館内に満ちあふれていました。(器具・演技係)

## さくぶん

細川小四年 池田 祥香

きのう、うん幼会がはじまりました。玉入れをやりました。つなひきをやりました。よいしょと叫んでカモテープひっぱりました。かちました。つなひきはだのしかつたです。



大門小六年 佐藤 純一

さようは、バスに人がすわってしまいました。つなひきました。シャッチーくんが立って、た。シャッチーくんがうごいた。はるなちゃん、シャッチーくんとかくしゅをせしました。おもしろかったです。

先生とまなうなをしました。おもしろかったです。はりました。ボールがぜんぜんはいるませんでした。アーチェリーをうちました。ゴールまでは、つなひきました。

シャッチーくんがおどりました。



シャッチー君



つなひき



ほしいサッサ (玉入れ)

# 就学を前にして

岡崎市役所児童課

課長補佐 古田 彰子

にはどうしたらよいか、よりよく伸びるようにするにはどこがよいか、が話題の中心です。

お子さんの教育や就学について、いつでも気軽に相談できる場として「そよかぜ相談室」が6月よりスタート。私共は不安や悩みをもつてみえる親ごさんの心情を理解し、子どもの将来とその幸せにつながる助言ができるように心がけています。相談にみえた方の大半は、その子もっている芽をはぐくむ

保育園に入園してすぐく発達したY君。それは普通児の中でよい刺激を受けたからだと考えられ、学校もそんな環境で生活していけば治っていくのではないかと期待しがちの親ごさん。普通か、特殊か、養護かはその障害や問題の程度です。大切なことは、我が子の現実の姿が認識されており、親の欲目や世間体や見栄で子どもの教育の場が選択されるようなことがあってはならないと思います。子どもの表情をよく見てみましょう「本人を中心に考える」こと

三島小一年 大原 寿洋

十月十二日、九十八名の子供たちは、日本モンキーパークで楽しい一日をすごしました。十王公園の結団式では、岡崎小学校の福田与味さんとお礼のことばを上手に言ってくれました。観光バスの中では自己紹介をしたり、クイズをしたりして、交流を深めることができました。モンキーパークに着くと、学

## ライオンズクラブ招待 社会見学会

—日本モンキーパーク—

帰りにボールのおみやげも頂き、うれしい社会見学でした。



### がんばってます (3)

春日台職業訓練校卒業生

犬飼 英夫 君

訓練校では、何が一番厳しかったかと言いますと、あいさつの仕方とか整理整頓のことを先生によく注意されたことです。

また、洗濯は自分の手で洗わないといけないところも厳しいなと思ったところです。

訓練校を卒業して富士電線電器株式会社で三年目になります。訓練校でおそわったことが会社で役に立っています。

今では、会社で友達もでき、休日にはカラオケに行ったりしています。これからも頑張って仕事をしようと思っています。



### 研修報告

国立特殊教育総合研究所の短期研修に参加して

美川中 田島広嗣

五月十日から七月十三日の間、神奈川県横須賀市にある国立特殊教育総合研究所の研修を受けることができました。研修では、全国各地から研修生が集い、特殊教育の情報交換をしたり、最近の動向や知見を多くの著名な先生方から直接学ぶことができました。

研修生は寄宿生活をしましたので夜には熱く特殊教育を語ったり、時には研究所の先生のお宅までおしかけて話し込んだりしました。研究所からながめることができたり三浦海岸のまぶしさが今でもあざやかに思い出されます。



宮崎直男先生(中央)と

# よりそい 声かけ かかわり合う

山中小  
内藤 朋子

子どもと共に歩み続けた30年間  
自分の思い出は、そのまま特殊教  
育の流れとびつたり合致している  
とも言えます。

子どもたちの目の輝きに惹かれ  
た連尺小時代。そして、親、医師、  
教師と環境によって支えられ、懸  
命に生への努力を続けている子ど  
もたちと、一緒になって涙した院  
内学級時代。登校をしづつは、  
小さな心を痛め、精一杯赤信号を  
おくる子を見て、共に障害をクリ  
アーしていった梅園小時代。どれ  
をとっても常に子どもたちから何  
かを学び続けていたような気がし  
ます。

められる事の素晴らしさを何とか  
味わわせた一心で、あらゆる事  
を体験させました。

「ぼく、みんなの中に入るのヤダ。」  
と泣きべそをかいていたK  
男。細い手を震わせて懸命に訴え  
ていたあの瞳を忘れてはならない  
と思えました。視力障害、マヒ、  
そして発作による不安。K男の複  
雑な思いを理解しなければ、彼と

の信頼関係は成  
り立ちません。

小さな、小さ  
な体から発する  
叫びが、私には、  
「生きたい！生  
きたい！」と  
言っているよ  
うに聞こえてな  
りませんでした。  
あれから8年。



卒業した児童保護者の会で、ある  
母親さんからこんな言葉を聞きま  
した。「先生、あの時に血を吐く  
ような思いを乗り越えられたのは、  
ここに、こうして集う先生はじめ  
お医者様、そして同じ思いを持つ  
親ごさんが寄り添って下さってた  
からなんです。私、今になって  
それがわかったんです。後になっ  
て大切な事に気づくこと、あ  
るんですね。」と。

たくましい男性になりつつある彼  
に、通学途中に会えるのが楽しみ  
でもあります。

● ゆっくり、じっくり生涯かけて

院内学級に入って来る子どもた  
ちは一様に、思うようにならない  
もどかしさを母親にぶつけ、もし  
て母親は我が子を不びんに思い病  
室の片隅で涙するのです。

時を経て、年一回、院内学級を

そして現在山中小でも特殊学級  
の子たちと共に学びつづけていま  
す。全職員が一人ひとりの子ども  
たちの気持ちを受けとめ、  
「健やかな心、心の健康。」  
の土壌を築いています。



美川中  
鈴木勢津子

のれん作り

新聞の広報を五、六センチの  
幅でたくさん切りとります、こ  
れを一枚ずつ筒のように巻いて  
いきます。たくさん筒ができ  
たところで糸を筒に通してい  
ます。この筒が適当な長さまで  
つながったら、竹に結んでいき  
ます。そして着色します。

花鉢・物入れ作り

のれんと同様に、広告をまる  
めて作ります。この場合は広告  
の幅は広い方が良いでしょう。



たくさん筒ができたところで、  
針金に通していきます。これを  
かごに編み込みます。ニスなど  
で着色すれば完成です。  
まるめる、通す、編むといっ  
た手先の動きがくり返し必要と  
なるので、作品づくりを通して  
手先の功ち性を高める活動にな  
ります。根気よく取り組むほど  
素晴らしい作品になるでしょう。



大門小 二年 飯田春菜  
ねん土の顔



連尺小 開発学級  
どんぐりアート

